

けんぱくものしりシート

か

お刈りあげ



お刈りあげは、その年の稲の収穫を祝い、田の神さまに感謝する行事です。

秋も深まり稲を刈りあげた頃に行われ、「刈りあげ節供」などともいいます。

岩手県南部にある奥州市江刺区藤里では、旧暦9月末日から10月初め（今

の暦で10月末日から11月初め頃）にお刈りあげを行い、その年にとれた稲

や新米、おもちなどを田の神さまにお供えして、稲が豊かに実ったことを感謝しました。

⑥ 菊の花

お供えしたおもちの両側に、全部で9本お供えします。

⑤ ごはん

新米をたいてお供えします。

④ お供えもち

新米でおもちをついて、大きな丸いおもち2個と、小さな丸いおもち3個を作り、重ねてお供えします。

③ 箕

新しい箕を、南に向けて置きます。箕は穀物を運び、実とからを分ける道具ですが、神さまのお供え物を置くためによく使われます。

① 臼

床板のない地面のままの台所（土間）に、臼をさかさまにふせて置きます。臼は穀物やおもちをつく時に使う道具です。お祭りやお祝いの時は、臼も休ませます。

② 稲

臼の上に、その年にとれた、ごはん用のうるち米の稲2束と、おもち用のもち米の稲1束をお供えします。

お刈りあげ



### ◆お供えした稲でわら馬◆

お刈りあげにお供えする稲は、春の田植えの時に、田の神さまに稲の苗や赤飯などをお供えして、「お田の神をあそばせた」田からとった稲を使います。

お刈りあげが終わった後、この稲はたいせつに取っておき、翌年、旧暦6月15日の「馬ッコつなぎ」の時に、そのわらで馬を作りました。

また、お米は粉にして水でねったシトギにして、わら馬の口につけます。



【参考】ミニプラザに展示  
遠野市・附馬牛の  
馬ッコつなぎのわら馬

### ◆小さな3つの丸いもち◆

お供えもちの上ののっている小さな3つのおもちを「びっきのもち」といっています。びっきとは、カエルのことです。江刺区玉里では、大きな丸いおもちをお供えしますが、それを、「びっきのもち」といっています。

農神（＝田の神さま）にお供えしたもちを、カエルが背負って、神さまの後ろについて山へ入っていくという民話が、東日本に伝わっているといっています。



お刈りあげの日は、お祝いの日でしたので農作業を休みました。農家にとっては、1年の最後の休みの日でした。また、この日、田の神さまは田からあがってきて、お祝いをうけて山へ帰るといわれています。

くらしの中の行事について調べてみるのもおもしろそうですね。

参考にした本 『岩手県の田植習俗』 岩手県教育委員会 1963年  
『岩手民間信仰事典』 岩手県立博物館 1991年 他

来月（11月）の  
けんぱくものしりシートは  
現勢・生物-11だよ！

おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34  
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214  
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>